

「夏休み塩の学習室」でも周知活動を行っています。

塩と暮らしを結ぶ運動推進協議会の賛助会員であるたばこと塩の博物館（東京都墨田区）では、毎年、夏休み期間に、小・中学生向けの「夏休み塩の学習室」が開催されており、自由研究のヒントを探す親子連れなど、多くの来場者で賑わいます。

第39回となる今年は、動物園を模した会場で、いろいろな動物に話を聞きながら動物と塩の関わりについて学べる「動物にきこう！塩のひみつ2018」が開催されています。

それぞれの動物から話を聞いて、その動物が塩を「すごくほしい」のか「それほどほしくない」のかあるいは「ほしくない」のかをしらべていき（ただし、「ほしくない」動物であっても、生きていくのに塩は必要です）、正解するとカードが貰えます。マルミゾウ、ジャイアントパンダ、ライオンなど全部で12種類の動物のカードを揃えると、日替わりでペーパークラフトなどの賞品と交換できますが、その一つとして、塩と暮らしを結ぶ運動のウチワも提供しています。

博物館内は空調が効いていますが、一步外に出るととても暑い日が続いているため、ウチワは大変好評をいただいています。扇ぐだけでなく、裏面の熱中症対策情報も、ぜひお読みいただければと思います。

また、夏休み期間には、「動物にきこう！塩のひみつ」のほかにも、塩の結晶づくりなどができる「体験コーナー」も開設されていますが、その近くに塩と暮らしを結ぶ運動の冊子『塩と暮らしのあれこれBOOK』も設置し、自由にお持ちいただいています。

博物館で動物と塩の関わりを学んだあとは、冊子を読んで、人間の暮らしと塩の関わりについても、学んでいただきたいと思います。



塩イルカTシャツを着用したスタッフの皆さん



左：「おはなしマシン」で動物の話が聞けます。
右：正解すると貰えるカードとカードケース



左：ウチワとペーパークラフト
右：『塩と暮らしのあれこれBOOK』

